



【支援企業紹介】②

三陸花ホテルはまぎく

はまぎくの花言葉に、復興への決意を込めて

いわて異業種交流討議会 ④

「青森・秋田・岩手 3県合同商談会」の開催について ⑤

試験販売事業出展者募集のお知らせ ⑤

平成25年度工程改善研修会活動報告会 ⑥

顧問／新職員紹介 ⑥

第7回いわて特産品フェアご案内、
岩手県の物産と観光特別展を開催 ⑦

コーディネーター・アドバイザー紹介 ⑧

三陸花ホテルはまぎくの ココがポイント!

お客様と接するサービス係のスタッフは全員が大槌町や山田町など沿岸の出身。写真の6人のうち半分が、今も仮設住宅から通う。明るい笑顔とていねいな接客、背後に広がる美しい浪板海岸もホテルの魅力だ。



事業カレンダー

いわて産業振興センターに関連する事業紹介です

6月 [JUNE]

- 12日~14日 メディカルショー-ジャパン&ビジネスエキスポ2014 (新潟県)
- 19日・20日 ものづくりアカデミー-工程改善基礎講座 (北上市)
- 25日~27日 第18回機械要素技術展 (東京都)

7月 [JULY]

- 2日 三県合同商談会 (東京都)
- 15日・16日 ものづくりアカデミー-管理者のための生産管理セミナー (盛岡市)

8月 [AUGUST]

- 26日~28日 ものづくりアカデミー-品質管理中級セミナー

技アリ!

いわての仕事録

復興への決意を込めて はまぎくの花言葉に、



1 四季の花をあしらった館内のフラワー装飾は、東京の著名なフラワーデザイナーが手がけたもの。
2 地上6階建、客室63室で270人収容可能。片寄波で知られる浪板海岸を一望。
3 現在のホテルスタッフは46人。震災後に新規で採用された人が多くを占める。
4 ボランティアが植栽した「希望の花畑・絆」。年3回ほどの植え替えに全国各地からの支援者が訪れる。
5 震災後1階に設置された防災展示室。天皇御宿泊、大槌町の写真などが並ぶ。
6 震災後導入したジェットタイヤボイラー。廃タイヤを燃料にするため、従来と比べ8割の燃料コストを削減。ホテル導入例は珍しい。
7 この日も秋田からの被災地支援ツアー客が宿泊。笑顔で出迎え、ホテルと大槌のファンを増やしている。
8 調理スタッフは6人。三陸産や旬の食材を使用。

【支援企業紹介】大槌町 三陸花ホテルはまぎく

震災で壊滅的被害を受けた大槌町の浪板観光ホテルが、昨年8月「三陸花ホテルはまぎく」として装い新たにスタート。震災で生まれた課題に悩む被災地で、復興のヒントを千代川茂社長に伺った。

【いわて産業振興センターに期待すること】
3年目を迎えた大槌町の企業復興には、税制や経済情報など制度面での情報提供が不可欠。また三陸と内陸の企業を結びつける異業種交流会などの「場」作りも期待する。

希望と追悼の気持ちを花にこめ 変わらず三陸の海辺に立つ宿

エントランスを抜けロビーに入ると、天井の中央に、こぼれ落ちんばかりの見事な花のシャンデリアがあった。見回すフロントやロビーのそこかしこにも色とりどりの花が美しく飾られ、ホテル全体にふんわりと温かな空気が満ち満ちている。

「花に託したのは、復興する地域への希望と、震災で亡くなった方への供養の思い。そして当ホテルが、ここ大槌の復興のシンボルになっていければとの願いも込めています」。

穏やかな浪板海岸を見下ろすホテルの一室で、三陸花ホテルはまぎくの

千代川茂社長が思いを語る。はまぎくの花言葉は『逆境に立ち向かう』。可憐な白花は千代川社長らホテルスタッフの決意と、復興に心を寄せる皇室との絆を象徴するものだ。

昭和48年、この地で海浜旅館を営んでいた父の跡を継ぎ、兄の山崎龍太郎社長(当時)と二人三脚で浪板観光ホテルを創業した千代川社長。観光客の宿泊、地元での冠婚葬祭にとホテルは利用され、平成9年には「全国豊かな海づくり大会」に出席された天皇后陛下もご宿泊。その時に海岸に咲くはまぎくを気に入られた美智子皇后へ、山崎前社長が種を送ったエピソードもよく知られている。

そんな順調な経営を一変させたの

が、東日本大震災だった。大津波はホテル3階の高さにまで押し寄せ、2階で被害点検をしていた千代川社長らを飲み込んだ。再び気付いた時にいた場所は、ホテル屋外のドラム缶の上。一緒に波に飲まれた兄の山崎前社長は、今も見つかっていない。

支援を支えに絶望から再開。 これからの旅行スタイルも探る

「あの時の大槌は、まるで戦争の跡地のようなだった…。津波と火災で壊滅した市街地とホテルの無惨な姿を見て、千代川社長が再開を諦めたのは無理もない。盟友でもあった兄、そして女将をつとめる妹も失い、一人での

経営は不可能に思えた。

再起を決意できたのは、地域産業復活のためのグループ補助金制度や、当センターの高度化資金が動き出したこと、そして皇室が被災地へ向けて発したメッセージだった。

「その時の画面に映ったのが、兄が18年前にお送りしたはまぎくの種でした。よし、新たな発想で再びホテルを作ろうと決めました」。目指すのは『復旧』ではなく『復興』との意志を込め、長年親しんだホテル名も変えての挑戦が始まった。金融機関との交渉や従業員の確保…。いくつものハードルを乗り越え、2年後の平成25年8月30日、三陸花ホテルはまぎくはオープンしたのである。

館内はもちろん、玄関前や中庭にも

花が溢れる同ホテル。外構の植栽は「花植えツアー」と称し、当地を訪れるボランティアが行ってくれたものだ。遠くは東京や名古屋から、震災当日宿泊していた秋田県五城目町の人々も桜の植樹に訪れた。「もはや風景や食だけで人は動かない。これからは体験や目的型の旅を考えていかないとダメ」と千代川社長は断言する。ホテル休業中に全国はおろかアジアへも出かけ旅のニーズを徹底調査、旅行者の視点でこれからのホテルの在り方を熟考した結論だ。

震災の風化と人口減少が進む被災地に、いかに人を呼び込むか。難しいテーマに取り組む同ホテルに、地域再生への期待と応援が寄せられている。

技アリ!ポイント
「人間観光」をテーマに魅力ある地域づくり
今はまだ震災特需。これからは大槌を訪れるボランティアやお客様と地域の人々が直に繋がって、町のファンを増やしていくことが重要です。ホテルを基点に、風景や食はもちろん、人も観光資源とする「人間観光」を進めています。

企業データ	会社名	株式会社浪板観光ホテル (三陸花ホテルはまぎく)	代表者	千代川茂
	本社	上閉伊郡大槌町浪板海岸	創業	昭和48年(1973)
	電話	0193-44-2111	従業員	46名
			業種	宿泊業



代表取締役社長
千代川茂

「青森・秋田・岩手 3県合同商談会」 の開催について

(公財)いわて産業振興センターでは、北東北3県の(公財)21あおり産業総合支援センター及び(公財)あきた企業活性化センターとの共催で標記商談会を開催いたします。

この商談会は、関東地区の発注企業の皆様と、青森・秋田・岩手県内のそれぞれに特色を持った受注企業の方々が一室に会して、個別商談や情報交換等をしていただくため開催するものです。

この機会に是非ご参加いただき、北東北3県における新規取引先の開拓や、新たなパートナーづくりにご活用くださいますようお願い申し上げます。

- 開催日** 平成26年7月2日(水) 13:00~17:10
- 開催場所** TRC東京流通センター第一展示場(東京都大田区平和島6-1-1)
- 実施内容** 受・発注参加企業における面談形式の商談
- 参加対象** 関東地区を中心とした発注企業(メーカー・商社) 60社
青森・秋田・岩手の各県財団に登録している受注企業 180社
- 申込締切日** 平成26年5月13日(火)

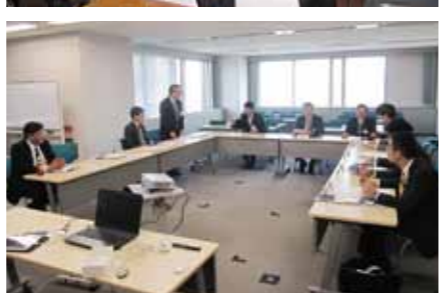
【お申し込み・お問い合わせ】ものづくり振興グループ 取引支援チーム 鎌田
TEL:019-631-3822 FAX:019-631-3830 E-mail:sitauke@joho-iwate.or.jp



次世代の中小企業経営者等による異業種交流グループ 通称「いいこと」 いわて異業種交流討議会 平成26年度参加者募集のご案内

平成25年度に岩手県の若手中小企業経営者・次期経営者等により結成された異業種交流グループ「いわて異業種交流討議会」、通称「いいこと」につきましては、これまで「産業情報いわて」等で活動状況等をご紹介してきたところですが、いわて産業振興センターでは、平成26年度も引き続き「いいこと」の活動をサポートしていくこととなりました。

つきましては、本年度新たに参加して下さる方を募集しますので、特定の経営課題解決のためのディスカッション、企業見学会、外部講師を招いての講演会等を通じて次世代の経営者同士のネットワークを広げたいという方は、下記の事項にご留意のうえ、奮ってご参加ください。



募集概要

■ 対象者

概ね50代前半以下の企業経営者、次期経営者※等

※「次期経営者」とは、将来、経営幹部として会社を担っていくことが期待されている方のことであり、現経営者の親族であるかどうかは問いません。

■ 募集人数

5~10人程度 ※昨年度から引き続き参加の方を含め、20人程度のグループ形成を目指しています。

■ 活動期間(予定)

平成26年6月~平成27年3月

注意事項

- 会費は特に徴収しませんが、交流会終了後の懇親会(参加は任意)の会費や、交流会を遠隔地で開催する場合の交通費等は各自でご負担願います。
- 定例の交流会には、参加者ご本人が出席していただくことが基本であり、代理出席等は認められませんのでご注意ください。
- 参加者の方には、企業見学の受け入れをお願いすることがあります。

詳しくは、産業支援グループ 熊谷(TEL:019-631-3823)までお問い合わせください

貴社の新商品を盛岡地区で試験販売し、手応えを確かめてみませんか?

試験販売事業 出展者募集のお知らせ

消費者ニーズや商品評価の把握にご活用ください!



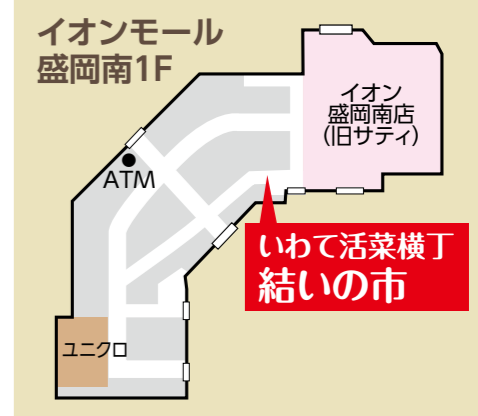
【主催】(公財)いわて産業振興センター

期 間 平成26年5月~平成27年2月末

場 所 イオンモール盛岡南「いわて活菜横丁・結いの市」内
試験販売スペース(エスカレーター側入り口)

- 事業対象者
- 中小企業支援法第2条に規定する中小企業者
 - 岩手県内において創業しようとする個人及びグループ
 - 農林水産物及びその加工品の生産者等
 - その他、いわて産業振興センターが適当と認める者

使用可能面積および1事業者あたりの出店限度日数 ● 5m×3.2m、最長7日間(間が空いても可)までで調整します。



詳しくはホームページをご覧ください▶ <http://www.joho-iwate.or.jp/tm/>

お問い合わせ ● 空き日程の確認、申込：(一社)遠野ふるさと公社(結いの市管理者) ☎019-631-3137
● 制度についての確認：(公財)いわて産業振興センター産業支援グループ ☎019-631-3823

※この事業は「いわて希望ファンド」の助成を受けて実施しています

復興応援特別企画

●24日(土)、25日(日)に、「岩手県立高田高校」の生徒さん達による販売会を行います。高田高校の生徒さん達が、絆協定を締結している名古屋市の「愛知商業高校」の生徒さんがプロデュースした復興支援寄付金付「希望のはちみつりんごアイス」と、自校で製作した商品を販売します。

●27日(火)に、震災以降岩手県への支援を継続して下さっている愛知県名古屋市の「河村たかし市長」が来場され、千葉副知事とのトークショーや陸前高田市の特産品のお振舞いを行います。

第7回 復興応援！ いわて特産品フェア開催

日時 平成26年5月23日(金)～28日(水)
午前10時～午後7時(最終日午後5時終了)

会場 パルクアベニューカワトク
7F催事場&ダイヤモンドホール&1階特設会場

主催 いわての物産展等実行委員会((公財)いわて産業振興センター)、岩手県

お問い合わせ先 いわての物産展等実行委員会事務局 TEL019-631-3824

今回は、オープニングプレゼントやオープニング特別提供品のほか、八幡平市「翅屋もとみや」のプリュレやプリン、盛岡市「V egetus」の低GIチョコレートなど、岩手の新しいスイーツが沢山登場します。イトインには宮古市「咖喱亭」が登場します。各種カレーセットが会場内で召し上がれます。

24日(土)、25日(日)、26日(月)には、農工商連携ファンドを活用して開発した「いわて一蘭菓はつと」のお振舞いも行います。

皆様のご来場をこころよりお待ちしております。



【工程改善事業に関するお問合せ】
ものづくり振興グループ 取引支援チーム 鈴木
電話:019-631-3822 FAX:019-631-3830
E-mail:sitauke@joho-iwate.or.jp

平成25年度工程改善研修会 活動報告会を開催しました

いわて産業振興センターでは、岩手県内ものづくり企業の製造技術向上や人材育成を目的として、関東自動車工業(株)(現 トヨタ自動車東日本(株))OBを講師に工程改善研修会を実施しています。工程改善研修会は「トヨタ生産方式自主研究会」をモデルとし、県内5社程度をグループとして、各社の工程を教材として学習する、実践形式のセミナーです。

去る3月18日に平成25年度の活動の集大成として「工程改善研修会活動報告会」を北上市・ホテルシティプラザ北上で開催しました。

発表会では、平成25年度の参加企業である城山工業(株)(奥州市)、(株)平野製作所(北上市)、和同産業(株)(花巻市)、リコー光学(株)(花巻市)が活動報告を発表して、次年度以降の活動を宣言しました。また、産業振興センターのコーディネーターが、工程改善の必要性やリードタイム・タクトタイムの考え方などについて講演を行うとともに、発表企業の今後の改善活動に対しても具体的なアドバイスをしました。

報告会には、産業界・行政関係者等約100名が来場するなど、県内での工程改善への取り組み意識の高まりが感じられました。

ごあいさつ

顧問兼連携推進センター長 藤井 克己



3月まで岩手大学の学長を務めさせていただきました。4月より、いわて産業振興センターの顧問、ならびに各事業を横断的に結びつける「連携推進センター」のセンター長として就任いたしました。

これまでの経験を生かし、本県の産業振興に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任職員紹介

センターに4月から新たに勤務する顧問、職員をご紹介します。



県内商工業事業者の皆さまのご期待にお応えする、その過程を通して、当センターの職員が能力を高め、さらに高度なご期待にお応えできる組織となるよう努めていきます。

常務理事兼事務局長 吉田 拓



産業支援グループに所属し、起業家・ベンチャー企業育成や、いわてインキュベーションファンド等を担当いたします。産業支援グループの業務は幅広いですが、日々学びながら早く皆様に役立てられるように頑張ります。

産業支援グループ参事 鎌田 徳幸



本年度から総合支援グループで大連経済事務所の管理運営、海外販路開拓のほか中小企業等の支援事業を担当することになりました。これまであまり経験のない分野の業務ですが、岩手の産業振興のお役に立てよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

産業支援グループ副主幹 立柳 敦



県を定年退職し本年度からお世話になります。岩手大学3年弱、岩手県立大学2回で2年強、工業試験場・工業技術センター3回で10年、テクノ財団3年などの経験を生かし、研究・技術開発から事業化までの一貫支援をキーワードに取り組みますので、これまで同様よろしくお願い致します。

連携推進センター副センター長 兼事業化プロモーター 小山 康文



次世代モビリティプロジェクトでサブプロジェクトディレクターを担当いたします。岩手地域の強みを最大限に活かして、岩手の自動車技術、自動車産業の育成を目指します。分からないことだらけですが、ご指導よろしくお願い致します。

次世代モビリティプロジェクトサブプロジェクトディレクター 今関 隆志



本年度から、岩手県の自動車産業振興に知的財産のサイドから関わっていきます。特許の調査や出願を通して敵を知り己を固めながらプロジェクトの前進に参画していきます。よろしくお願い致します。

国際技術動向調査ユニット 加藤 雅一

第43回

岩手県の物産と観光特別展 (大いわて展)を開催しました



平成26年3月19日(水)～3月24日(月)まで、東京都日本橋高島屋8階催会場において、「第43回岩手県の物産と観光展(大いわて展)」を開催いたしました。

リニューアルされた催会場で行われた今年の「大いわて展」では、「特別提供品」や「日替わり提供品」を提供したほか、「いわて特産品コンクール」で食品部門知事賞を受賞した協同組合三陸パートナーズの商品など、被災した企業が復興への意欲を持って開発した新商品を重点的に取り上げ、関東の皆様にも県内事業者の元気な姿を発信しました。



今回の特別企画としては、県事業のお客様参加プログラム(盛岡冷麺手づくり体験、久慈琥珀磨き体験、盛岡煎餅づくり体験)や、屋上イベント(まめぶ汁振舞い、わんこそば大会、さんさ踊り披露、ドラマ「あまちゃん」ファンのお笑いタレントによるトークショー、ゆるキャラ大集合)が行われ、沢山の皆様に参加していただきました。

岩手県産物へ運営を委託した初年度の出店事業者は、食品61社、工芸品22社、合計83社。売上は、79,226千円(税込)と、盛況のうちに終了しました。

コーディネーター・ アドバイザー紹介

今年度、センターの事業に協力いただいている
コーディネーター、アドバイザーの方々です。
皆様のところに訪問した際には、よろしくお願いいたします。



金融専門員
玉木 良洋
金融事業に関する管理業務



金融専門員
藤田 克彦
金融事業に関する管理業務



コーディネーター
佐々木 暁
窓口相談



参与
兼田 光治
貸与事業に関する管理業務



金融専門員
津田 真治
金融事業に関する管理業務



コーディネーター
伊藤 朗
窓口相談



コーディネーター
石川 篤
窓口相談、北いわて産業支援



農商工連携推進員
伊藤 利光
農商工連携ファンド



販路開拓推進員
山下 恵
販路開拓事業



コーディネーター
手代木 勝
工程改善研修会



コーディネーター
羽田 孝一
工程改善研修会



取引支援コーディネーター
菊池 元昭
受発注に関する相談



取引支援コーディネーター
菅原 敬
受発注に関する相談



事業化マネージャー
山脇 昇
新素材・加工産業集積プロジェクト



事業化アドバイザー
藤枝 賢之助
新素材・加工産業集積プロジェクト



技術経営アドバイザー
杉本 榮
新素材・加工産業集積プロジェクト



事業化コーディネーター
鈴木 淳一
新素材・加工産業集積プロジェクト



新分野開拓コーディネーター
杉山 大樹
新素材・加工産業集積プロジェクト



連携推進センター副センター長
兼事業化プロモーター
小山 康文
産学連携、事業化支援務



産学連携コーディネーター
熊谷 和彦
産学官連携の推進



プロジェクトディレクター
久郷 和美
次世代モビリティプロジェクト



サブプロジェクトディレクター
今関 隆志
次世代モビリティプロジェクト



プロジェクトアドバイザー
鈴木 高繁
次世代モビリティプロジェクト



イノベーションクリエーター
武部 英輔
次世代モビリティプロジェクト



イノベーションクリエーター
佐藤 正由
次世代モビリティプロジェクト



イノベーションクリエーター
田澤 潤
次世代モビリティプロジェクト



国際技術動向調査ユニット
加藤 雅一
次世代モビリティプロジェクト